

奈良県がん診療連携協議会
分科会報告

平成 30 年度 奈良県がん診療連携拠点協議会 分科会報告

放射線療法分科会

分科会開催日	第1回 平成 30 年 8 月 27 日（メール会議） 第2回 平成 30 年 11 月 21 日（メール会議） 第3回 平成 31 年 2 月 28 日（メール会議）
平成 30 年度 取組	分科会メール会議の開催： 平成 30 年度は、3 回のメール会議を開催して、県内の放射線治療施設間で、情報共有と患者紹介等の協力関係の強化を行ってきました。以下は第 3 回の開催通知メールと計 3 回の会議の概要です。 <u>平成 30 年度第 3 回放射線療法分科会メール会議（開催通知メール）：</u> 奈良県がん診療連携協議会 放射線療法分科会 委員の皆様 県内の放射線治療ではいろいろとお世話になります。今年度は、新たな機器の導入、稼働、スタッフの増員等をされた施設もあり、ますます充実した放射線治療に取り組まれていることと存じますが、一方で、平成 30 年 4 月の診療報酬改定では強度変調放射線治療（IMRT）実施の要件が緩和されず、一部の施設では厳しい状況が続いています。さらに、国指定の がん診療連携拠点病院（都道府県、地方）では、指定要件において、放射線治療医が、「原則常勤」から「常勤」（必須；ただし、猶予期間あり）に変更となっています。 さて前々回（8 月 27 日～）のメール会議で放射線治療の体制についてエクセルにまとめさせていただき、さらに前回（11 月 21 日～）は、平成 30 年 9 月以降の治療機器の導入、稼働、治療の開始、スタッフの異動、その他の大きな変化（予定も含む）について、お知らせいただきました。その後、県内の施設で常勤医の異動があり、放射線治療体制もさらに変化していますので、情報の共有ができればと存じます。11 月以降の 異動、体制の変化、その他について、可能であれば、全員に返信でお知らせいただければ幸いです。なお、担当者が交代された施設におきましてはお手数ですが、転送をお願いいたします。また、個人情報、その他の理由で、全員に返信が 不可の場合には、事務局担当、奈良医大 の長谷川のみにご返信下さい。 ***** <u>分科会メール会議議事概要：</u> 奈良県立医科大学附属病院：常勤医は 6 名（専従 4 名、助教 1 名空席）で、6 名中 5 名が放射線治療専門医です。 リニアック 3 台、ヨードシード（前立腺）、Ir192HDR（マイクロセレクトロン：子宮、前立腺）、

	核医学治療（ヨード内用、ソーフィゴ、ゼバリン）等の実施状況は同様ですが、ストロンチウム（メタストロン）が使用不可となっています。10月からは前立腺癌の高線量率小線源治療を開始しています。 奈良県総合医療センター： 常勤医が1名（専門医1名）のみで、今年度から新病院でリニアック2台体制となっていますが、強度変調放射線治療には対応できていません。 天理よろづ相談所病院： 常勤医3名（専門医2名）で、外部照射（リニアック2台）、Ir192HDR（VariSource iX）、核医学治療（ヨード内用、ソーフィゴ、ゼバリン）等を実施しています。4月から部長が交代予定です。 近畿大学奈良病院：常勤医4名（専門医2名→1名）で、外部照射（リニアック1台）、核医学治療（ヨード内用、ソーフィゴ、ゼバリン）を実施しています。 済生会中和病院：12月までで常勤医1名が退職して、1月からは非常勤医2名で、外部照射（リニアック1台）を実施しています。 高井病院：常勤医3～4名（専門医2～3名、脳外科1名）、外部照射（リニアック1台、陽子線1台、ガンマナイフ1台）を行っています。9月に稼働した陽子線治療も順調です。 高田市立病院：常勤医2名（専門医2名）で、外部照射（リニアック1台）を行っています。 市立奈良病院：1月から常勤医1名（専門医1名）が着任して、外部照射（リニアック1台：昨年度末に稼働）を実施しています。 ***** ＜分科会委員＞ 敬称略 奈良県立医科大学附属病院 放射線治療・核医学科 長谷川正俊 奈良県総合医療センター 放射線科 堀川典子 天理よろづ相談所病院 放射線部 根来慶俊 近畿大学奈良病院 放射線科 岡嶋 馨 済生会中和病院 放射線科 浅川勇雄（非常勤） 高井病院 放射線科 井上和也、長友康 高田市立病院 放射線治療科 横川正樹 市立奈良病院 放射線科 橋本泰年
来年度の予定	がん診療連携拠点協議会 分科会（メール会議）開催： 年に数回メール会議を開催させていただき、県内の放射線治療施設間で情報共有と協力関係の強化をさらにすすめていきます。

分科会開催日	第1回 平成30年10月24日(水) 第2回 平成31年 2月18日(月)
平成 30 年度 取組	<実績> ○第1回分科会 ①患者情報共有用紙について ➤昨年度の分科会での検討事項として、地域連携クリティカルパス(5大がん10種類)の活用件数が伸び悩んでいる状況から、まずは全がん統一の情報共有用紙を改訂。この共有用紙を運用しながら地域連携クリティカルパスを活用しやすいように改訂し、運用増加につなげていく。 ○第2回分科会(別紙参照) ①アンケート結果について ➤情報共有用紙の試行及び地域連携カンファレンスの開催状況について ②次年度の分科会方針について
来年度の予定	<来年度予定> ○地域連携クリティカルパス(5大がん10種類)の運用の促進・評価・分析。 ○地域連携クリティカルパスのあり方について国の動向を把握する。 ○情報共有用紙の運用方法を確定させて活用 ○地域の多職種カンファレンスの開催(地域連携会議) ○平成31年度第1回地域連携分科会開催時期 平成31年7月頃予定

平成30年度 奈良県がん診療連携協議会第2回地域連携分科会の開催について

1. 開催日時：平成31年2月18日（月）18：30～19：40
2. 開催場所：奈良県立医科大学 蔵書館2F 研修室
3. 出席者：都道府県がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点病院
地域がん診療病院・奈良県地域がん診療連携支援病院
14名

欠席者：奈良県医療政策部疾病対策課

（分科会後、同課へ資料送付済）

4. 検討内容

○情報共有用紙改訂版（以下、改訂版とする）の活用及び地域の多職種カンファレンス開催状況について、昨年末から今年1月にかけて、都道府県がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院・奈良県地域がん診療連携支援病院へアンケートを行った。アンケート結果については資料1を参照。

○改訂版は、がんと診断された医療機関で発行し、治療の必要があって他院へ紹介される毎に紹介先医療機関で患者情報を追記して活用していく。改訂版の記載項目が多く活用できないと回答された医療機関の一番の理由も診療情報提供書や看護サマリーに記載する内容と重複していたり、記載項目が多く業務負担増になる等の理由が多かったが、この改訂版は一つの医療機関ですべての項目を埋めていくのではなく、関わる医療機関全てが1枚の用紙に記載し埋めていくイメージで、1患者1枚の発行となる。また多職種の情報が1枚の用紙に反映される事でいろんな視点から患者さんの状況を確認できる事と、県統一の用紙を使う事、また1人のがん患者さんの情報を多職種で1枚の用紙で共有できる事でメリットが大きいと考える。少しでも患者さんの為になる事を進めていきたい。

○改訂版を使う対象患者さんは、がん種毎に使用する患者さん使用しない患者さんと分けるのではなく、がんと診断された患者さん全ての方が使用する対象となる。

○改訂版の細かい運用方法については今後決めていく予定。

○地域における多職種カンファレンス開催については殆どの都道府県がん診療連携拠点病院・地域がん診療連携拠点病院・地域がん診療病院・奈良県地域がん診療連携支援病院で独自に開催していただいていた。

○アンケート結果から、今後開催しようと検討している多職種カンファレンスの開催頻度は年1～2回開催が最も多く、また内容についてはケースカンファレンスや意見交換が主な内容で良いのではないかという結果になった。また1回の会議で検討する事例数は1～3ケースが最も多かったが、4～6ケースと回答する医療機関も

あった。カンファレンスの参加機関については、医療機関・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所には参加してもらった方が良くほとんどの施設が回答されたが、老人福祉施設や介護老人保健施設・医師会・看護師協会・行政にも参加してもらった方が良くと回答される施設や、カンファレンス内容によって参加してもらったほうが良いと考える関係機関は変わると回答される施設もあり、今後検討の必要があると思われる。

○地域における多職種カンファレンスの開催については今後運用方法を決めて次年度開催に向けて活動していく予定。奈良県がん診療連携協議会地域連携分科会でカンファレンスの活動状況を把握し地域におけるがん患者さんのよりよい地域連携に繋がるカンファレンスになるよう検討していく。

○次年度の目標について共有した（資料 2 参照）。

○次回の分科会開催時期については平成 31 年 7 月頃で決定した。

以上

第2回地域医療連携分科会 アンケート調査結果(H30.12.27照会)

資料1-1

1. 情報共有用紙について									
奈良県総合医療センター	市立奈良病院	近畿大学医学部 奈良病院	天理よろず相談所	国際中央病院	済生会中和病院	大和高田市立病院	奈良県総合医療センター	奈良県立医科大学	計 (回答数)
問1 情報共有用紙の活用について									
①活用する								○ (呼吸器・アレルギー・血液内科・内分泌代謝内科)	4
②活用しない	(現在、病棟看護士の業務、書類が煩雑化しており、超過勤務を問患者に使用できるかもしれないが、活用は困難と考える)	(診察情報提供と看護サマリーで対応できる内容である。自己記入項目が多く、作成するのに時間を要する)	○ (記入項目が多く、診療情報提供書や看護サマリーとの重複も多い。また、今更に入力の負担が大きい、更に手書きによる記入は、困難なため。但し、今後いろいろな連携を検討していくうえで、情報提供に必要な基本的な項目としての資料、材料として活用ができると思う。)		○ (用紙記入時間と人的問題がある。また、今後ICT化が進む中で、カルテ閲覧可能な状況となれば情報共有用紙の活用度への期待値が下がる可能性も考慮するところがあるため)			○ (呼吸器外科) (患者個別対応が現実的と考える)	5
問2 活用するにあたり内容の修正はありますか									
① 修正はない		(※意見として 汎用性を高めるためには、詳細な項目を簡易化する、または必須記入欄と任意に分けて記入できるように形式ではどうか、欄外に注釈として「必要な欄のみ」と入れるか。病診連携に活用するのであれば、診療情報提供書を作成して、本形式より簡潔になるのではないかと思われる。であればコストも算定できる。ただ、内容が重なることで、利用の妨げになるのではないかと懸念があるので、それぞれ丸の項目に「例」「図」「診療情報提供書参照」のような補足を入れることも1案ではないだろうか。※以前の様式にもあった。						○ (呼吸器・アレルギー・血液内科・内分泌代謝内科)	4
② 修正がある									0
問3 貴院で活用できる診療科をご回答ください				外科、内科、泌尿器科、緩和ケア科	外科？	泌尿器科	外科、呼吸器内科、消化器内科	呼吸器・アレルギー・血液内科や活用検討消化器内科、消化器外科	6
説明資料の有無									
	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし		

	奈良県総合医療センター	市立奈良病院	近畿大学医学部 奈良病院	天理よろず相談所	国際中央病院	済生会中和病院	大和南田市立病院	南奈良総合医療センター	奈良県立医科大学	計 (回答数)
2. 地域が多職種カンファレンスについて										
問1 カンファレンス開催をする為のエリアはどのように設定する方が良いと思われますか										
① 各拠点病院が独自に決める	☐	☐		☐			☐	☐	(呼吸器・アレルギー血液内科・消化器・内分泌代謝内科・呼吸器外科)	5
② 二次医療圏毎			☐							1
③ その他	☐	(基本は二次医療圏毎が良いと思うが、病院の機能や状況に応じてよいのではないかと)	☐	(各拠点病院が担当エリアを決め、全県を対象とするよう設定)	☐	(県全体、①②と分けられない地域の場合があるため)				3
問2 参加機関についてはどの機関を対象にしたいと思いますか(複数回答あり)										
① 医療機関	☐	☐	☐		☐	☐	☐	☐	☐	8
② 訪問看護ステーション	☐	☐	☐		☐	☐	☐	☐	☐	8
③ 居宅介護支援事業所	☐	☐	☐		☐	☐	☐	☐	☐	8
④ 老人福祉施設・介護老人保健施設		☐	☐		☐	☐	☐	☐	☐	6
⑤ 医師会	☐	☐	☐			☐	☐			4
⑥ 看護師協会	☐	☐	☐			☐	☐			5
⑦ 行政		☐	☐		☐	☐	☐			5
⑧ その他		カンファレンスの内容によって決められる。関係機関には可能な限り参加していただくのが、理想だと思う。	開催は限定せず、関連する人すべて参加した方がよい	☐	(症例ごとに、関わりがあった機関に、参加を呼び掛ければ良いと思う)	☐	(ケアマネ協会、地域包括支援センター管理者)			4
問3 開催頻度についてどれくらいの頻度が良いでしょうか										
① 1～2回/年	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	(消化器・内分泌代謝内科・呼吸器外科)	8
② 3～4回/年		☐					☐	☐	(呼吸器・アレルギー血液内科)	3
③ 5回/年以上										0
④ 1回/月以上										0
⑤ 1回/週以上										0
問4 1回の会議で検討する事例はどれくらいある方が良いでしょうか										
① 1～3ケース/回	☐	☐	☐	☐		☐	☐	☐	(消化器・内分泌代謝内科・呼吸器外科)	7
② 4～6ケース/回					☐			☐	(呼吸器・アレルギー血液内科)	3
③ 7～9ケース/回										0
④ 10ケース以上/回										0

問5	会議内容についてはどれが良いでしょうか(複数回答可)	奈良県総合医療センター	市立奈良病院	近畿大学医学部 奈良病院	天理よろず相談所	国保中央病院	済生会中和病院	大和高田市立病院	南奈良総合医療センター	奈良県立医科大学	計 (回答数)
① ケースカンファレンス	○	カンファレンスの内容 (テーマ)による	○	○	○	○	○	○	○	○	9
② シミレーション										○	1
③ グループワーク	○										1
④ 講義									○		1
⑤ 意見交換	○		○	○	○	○	○	○	○	○	8
⑥ その他										○	1
問6 貴院での取り組み状況や取り組み されていない場合は今後の取り組みの方 向性について	病歴の研修、カン ファレンスが乱立してお り、企画・準備等にもか かりの労力をかけても参 加人数が少なくという 問題が起きてきている 。例えは、近隣病院で交 互に開催すると、研 修のあり方、取り組み 方に検討が必要と考 える。	なし	あり(資料2-1)	あり(資料2-2)	なし	あり(資料2-3)	あり(資料2-4)	あり(資料2-4)	当院には在宅医療支 援センターがあり、宅 宅医療支援病院として の役割もあり、地域診 療所や訪問看護ステーションとの関係構築もされ ている。 当院でも「緩和ケアカン ファレンス」も行ってい るが、院内スタッフだけ で開催している。院外 の方にも参加していた だが、個人情報 の兼ね合いや日程調 整を行うとの時間があ がるため、院外スタッフ まで案内はできていな い。 病棟の大きいがん拠点 病院で開催し、そこに 参加する手法が良いの ではないかと考える。	癌人的なネットワークを 運じた患者の紹介を実 施。	9

1. 次年度の目標

- ① 地域連携クリティカルパスの運用の促進・評価・分析
継続して評価分析を行い運用の促進について検討していく。
- ② がん地域連携クリティカルパスの国の動向について確認
→地域連携の在り方について検討。
- ③ 情報共有用紙の運用方法を確定させて活用
- ④ 地域の多職種カンファレンスの開催（地域連携会議）

2. 次年度の分科会開催時期

- ・平成 31 年 7 月頃

平成 30 年度 奈良県がん診療連携協議会 分科会報告

院内がん登録分科会

分科会開催日	<u>院内がん登録分科会</u> メールにて開催（予定） ・都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会がん登録部会報告 ・がん登録研修会開催報告 ・情報提供等
平成 30 年度 取組	<u>1. がん登録データの集計および分析</u> 各拠点病院のがん登録 2015 年データについて、収集・分析を行う（奈良医大） <u>2. 院内がん登録分科会 がん登録研修会</u> 「平成 30 年度 がん登録担当者研修会」 共催：奈良県がん対策推進協議会 がん登録部会 日時：平成 30 年 9 月 2 日（日）13:30～17:00 場所：奈良県立医科大学 厳橿会館 受講者：29 名（県内のがん登録担当者、診療所医師等） 第 1 部『全国がん登録情報の効果的な活用について』 講 師：国立がん研究センター がん対策情報センター 全国がん登録室長 松田 智大 氏 第 2 部『造血器腫瘍について』 ・「造血器腫瘍～白血病・リンパ腫・骨髄腫～」 講 師：奈良県立医科大学附属病院 腫瘍センター センター長・病院教授 神野 正敏 ・「悪性リンパ腫の病理組織分類と放射線治療」 講 師：奈良県立医科大学附属病院 放射線治療・核医学科 教授 長谷川 正俊
来年度の予定	<u>2019 年度活動予定</u> ①2019 年度 奈良県がん診療連携協議会 院内がん登録分科会 がん登録研修会（年 1～2 回） （1 回は奈良県がん対策推進協議会がん登録部会と共催予定） ②奈良県がん診療連携協議会 院内がん登録分科会（年 1 回）

平成 30 年度 奈良県がん診療連携拠点協議会 分科会報告

化学療法分科会

分科会開催日	平成 31 年 3 月 7 日 (木) web 会議システム (Microsoft 「Skype for Business」) を使用
平成 30 年度 取組	<u>1. 多地点 web カンファレンスの実施</u> 各医療機関における実際の症例を基に、症例検討を行った。 内容によっては関係診療科の医師が参加し、内容の充実化を図った。(計 6 回・裏面参照) <u>2. 化学療法医療チーム研修会の開催</u> ①がん化学療法医療チームフォローアップ研修会 ※H29 チーム研修会参加施設を対象に開催 テーマ:「チーム活動の成果及び今後の課題」 日 時:平成 30 年 5 月 27 日 (日) 場 所:奈良医大厳櫓会館 参加者:5 施設 20 名 (医師・薬剤師・看護師・MSW) ②がん化学療法医療チーム研修会 テーマ:「症例検討で学ぶチーム医療」 ～大腸癌の治療方針の決定とマネジメントを通じて～ 日 時:平成 30 年 11 月 3 日 (土) 場 所:奈良医大厳櫓会館 参加者:4 施設 15 名 (医師・薬剤師・看護師・MSW)
来年度の予定	<u>1. 定期的に多地点 web カンファレンスを開催</u> 関係部門の医師、薬剤師、看護師など多職種の参加を促し、さらなる内容の充実化を図る。 <u>2. 化学療法医療チーム研修会の開催</u> 研修会のアンケート結果を参考に内容を検討し、県内のレベルアップを目標に研修会を開催予定。
その他	分科会の委員を中心に行っている自主研究グループ「奈良がん医療研究会 (まほろば塾)」を年 2 回、継続して開催する予定である。

化学療法分科会の取組

平成 30 年度 多地点 web カンファレンス開催実績

第1回	7月12日(木)	「多発腫瘍の症例」 【奈良県総合医療センター】	・奈良医大附属病院 ・県総合医療センター ・市立奈良病院 ・近大奈良病院 ・天理よろづ相談所病院 ・国保中央病院 ・大和高田市立病院 ・土庫病院
第2回	9月13日(木)	「私の乳癌若年性女性に対する 妊孕性保護のICの実際」 【市立奈良病院】	・奈良医大附属病院 ・市立奈良病院 ・近大奈良病院 ・天理よろづ相談所病院 ・南奈良総合医療センター ・国保中央病院 ・済生会中和病院 ・大和高田市立病院
第3回	11月8日(木)	「当院におけるICI使用経験」 【国保中央病院】	・奈良医大附属病院 ・近大奈良病院 ・天理よろづ相談所病院 ・南奈良総合医療センター ・国保中央病院 ・済生会中和病院 ・大和高田市立病院 ・土庫病院
第4回	1月7日(木)	「オプジーボ使用例における 免疫関連有害事象の可能性に ついての相談」 【奈良県立医科大学附属病院】	・奈良医大附属病院 ・近大奈良病院 ・南奈良総合医療センター ・国保中央病院
第5回	1月24日(木)	「同時性重複癌（進行十二指腸 癌と胃幽門部癌）の治療選択」 【済生会中和病院】	・奈良医大附属病院 ・近大奈良病院 ・天理よろづ相談所病院 ・南奈良総合医療センター ・国保中央病院 ・済生会中和病院 ・大和高田市立病院
第6回	3月7日(木)	胃癌多発肝転移症例 【大和高田市立病院】	※化学療法分科会同時開催

分科会開催日	平成 31 年 3 月 メールにて開催
平成 30 年度 取組	<u>1. 拠点病院の緩和ケアにかかる取組の中で 必須要件となる取組の実施</u> ①まほろば PEACE 緩和ケア研修会 計 8 回 （県内拠点病院、地域がん診療病院、支援病院で開催） ➢平成 30 年度より「e-learning」＋「集合研修」 で構成される新指針に基づき実施した ➢在宅療養支援診療所等へ、緩和ケア研修会の受講方法の変更の周知文書を作成した ②がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会 （病診連携）の開催 ③緩和ケア普及啓発（県民公開講座等）の開催 ④緩和ケアチーム研修会の実施〔奈良医大〕 ⑤がん医療に携わる医療者のためのコミュニケーション 技術研修会（CST）の実施 〔奈良医大〕H31 年 3 月 16 日、17 日開催予定 ※②～④の取組は裏面参照。
来年度の予定	①まほろば PEACE 緩和ケア研修会の開催 ②引き続き、緩和ケアに関する研修会や普及啓発活動の実施

平成30年度 奈良県がん診療連携協議会（緩和ケア分科会） 取組報告

◆在宅緩和ケア地域連携事業「がん性疼痛管理を中心とした緩和ケアに関する研修会」【原則必須】

医療機関名	内容
奈良医大	H30.11.25（日）「在宅緩和ケア地域連携研修会（ケアカフェちゅうわ）」 県内診療所の医師や看護師、管理栄養士等に対し、「がん患者の食事と栄養を支える」をテーマに、緩和ケアに関する研修会を開催した。（参加者：28名）
奈総医セ	地域の医療従事者や福祉職らと共にがん患者の意志決定や地域連携の問題を検討する症例検討会を開催（H30.9.13、H30.11.8、H30.12.13は症例検討会を開催、H31.3.14はミニ講義+症例検討会の開催予定）
天理よろづ	H31.3.15「在宅緩和ケア地域連携研修会」を開催予定 緩和ケアチームと在宅緩和ケアを専門とする医師等による、緩和ケア及び病診連携に関する研修会を開催する。
近大奈良	二次医療圏の医療従事者を対象とした緩和ケアに関する研修会「生駒緩和医療研究会」を3回開催した。 ①平成30年7月26日（木）「医療者が知っておきたい耳の傾け方ー傾聴・共感のコミュニケーション」参加者56名 ②平成30年11月22日（木）「がん性疼痛に対する薬物療法ーオピオイド鎮痛薬の適正使用と有害事象」参加者31名 ③平成31年2月14日（木）「最近の緩和ケアとサイコオンコロジーの動向ー高齢者・AYA・家族」参加者23名
市立奈良	当院緩和ケアチームと地域の在宅緩和ケアを専門とする医師、訪問看護ステーション、福祉関係者等による緩和ケアに関するスムーズな連携と疼痛管理を中心とした研修会の実施 H31.2.7「北和緩和ケア研究会」として開催済み（院外19名、院内20名 計39名）

◆緩和ケアの情報提供・普及啓発（県民公開講座等）【必須要件】

指針Ⅱ4（3）③/Ⅶ4（3）③：地域を対象として、緩和ケアやがん教育をはじめとするがんに関する普及啓発に努めること。

医療機関名	事業内容
奈良医大	H31.2.11（月・祝日）県民公開講座「病気とうまく付き合うために」 一般の方を対象として、「涙、笑い、そして希望につながる緩和ケア」をテーマに、緩和ケアに関する普及啓発及び情報提供を行った（参加者87名）
奈総医セ	H31.2.23（土）県民公開講座「最新のがん治療」を奈良県総合医療センター講堂にて開催 （参加者人数244名）
天理よろづ	H30.6.14「乳がん治療（緩和ケアを含む）～医師が知りたいこと、患者さんが話したいこと～」 一般市民対象に公開講座を開催（参加者41名）
近大奈良	一般市民を対象に緩和ケアをテーマとして市民公開講座を開催した。 平成30年11月17日（土）「遺伝子検査による抗がん剤治療ー免疫治療も含めてー」「がんとうまく付き合うための心のセルフケア」（参加者70名）
市立奈良	地域住民等を対象として緩和ケアに関する公開講座を開催 H31.3.23（土）市民公開講座『もしも、がんと言われたら。。。「緩和ケア」って？』 と題して、開催予定

◆当該都道府県においてがん診療に携わる専門的な知識及び技能を有する医師・薬剤師・看護師等に対する研修の実施について（必須要件）【奈良医大のみ】

医療機関名	事業内容
奈良医大	H30.10.14（日）「奈良県緩和ケアチーム研修会」 「サイコオンコロジストがいない！精神症状どう対応していますか？」をテーマに、県内の緩和ケアチームに対する研修会を開催した。（参加者：8施設30名）

分科会開催日	平成 30 年 6 月 7 日 (木) ※奈良県疾病対策課主催「サロン運営者会議」と同時開催 平成 30 年 9 月 6 日 (木) 平成 30 年 12 月 6 日 (木) 平成 31 年 3 月 7 日 (木)
平成 30 年度 取組	<u>1. 治療と仕事両立支援体制の整備と充実</u> ①社会保険労務士による就労相談の実施〔各医療機関で実施〕 ②産業保険総合支援センター担当者との連携、分科会で情報共有 ③長期療養者就職支援事業（がん・肝炎・糖尿病の長期療養者） ハローワーク（就職ナビゲーター）による就職支援〔奈良医大のみ〕 相談日を毎週火曜日の午後に固定で実施 ④療養・就労両立支援指導料の算定に伴う体制の整備 4 医療機関が両立支援ナビゲーターを配置した（研修会に参加） 奈良医大：8 月 両立支援体制の構築・医師等への周知 1 月～2 月 復職支援実施 <u>2. 相談の質の保証のための相談員のスキルアップ</u> ①がん相談員従事者研修会の開催 11 月 11 日（日） 参加 30 名 ②アピアランスケア研修に参加〔県疾病対策課主催〕 参加 46 名 ③治療と仕事両立支援に関する研修会の開催〔各医療機関で実施〕 <u>3. 患者サロン運用充実・患者会や患者団体の活動の支援</u> ①リレーフォーライフ奈良への参加 @天理駅前広場コフフン 10 月 6 日（土）～10 月 7 日（日） ②小児がん患者・家族などの交流会〔県疾病対策課主催〕 1 月 19 日（土） ③郡山保健所 中和保健所サロンに参加 ④若草の会 なぎの会等の交流会・講演会に参加・協力

	<u>4. 相談支援センターの院内職員への周知と相談機能の強化</u> ①院内職員から相談支援センターに紹介される体制の整備 相談支援センター・就労相談・アピアランスケアなどのお知らせ ポスター・チラシの掲示や配布 院内放送 電子掲示板の利用 ②就労支援相談窓口普及啓発チラシの作成に協力 〔県疾病対策課作成〕
来年度の予定	<u>1. 県内のがん相談員のスキルアップ</u> ①地域がん相談支援フォーラム近畿〔主催：兵庫県〕に参加 テーマ：「高齢がん患者の支援を考える」 2019年10月6日（日）神戸市立医療センター中央市民病院 ②がん相談員研修会の開催予定 テーマ：「相談対応の質保証を学ぶ」 講 師：国立がん研究センターがん対策情報センターより派遣 2020年2月22日 or 29日を予定 ③がん対策情報センターの相談員指導者研修に参加（1グループ3名） <u>2. 療養・就労両立支援の継続</u> ①社会保険労務士の就労相談の継続実施 〔各医療機関で実施〕 ②ハローワーク・産業保険総合支援センターとの連携 <u>3. AYA世代・小児がん患者・家族支援体制の整備</u> ①サロン・交流会の実施〔各医療機関で実施〕